

令和7年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取った内容を正しく理解し、相手に伝えたり、書いたりする力に乏しい。 語彙が少なく、自分の考えを文章にして適切に表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りテストや話し合い活動の場面を設ける。【対話】 授業の中で自分の考えを書く機会を増やし、語句調べや短文作りを通して語彙を増やし、言葉に対する興味関心を深める。【表現】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力は身に付いている生徒が多い、一部生徒は分数や小数などの複雑な計算に対し苦手意識をもっている。 思考力・判断力・表現力を問う課題に対して苦手意識をもつ生徒が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの計算問題を解くことで速く確実に計算する力を身に付ける。【決定】【表現】 繰り返し多くの問題に触れることで、応用問題に対する苦手意識をなくす。また、ICTを効果的に活用することや生徒同士での学び合いの場面を増やし、多角的な見方と多様な考え方ができる思考力を養う。【発見】【対話】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象への理解・知識が十分でない。 家庭学習習慣の確立が必要である。（計算力の不足等） 実験観察等で操作に不慣れな生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを用いて、事象への知識の習得を行う。【表現】 小学校時代の内容も含め、eライブラリやプリントを活用し、基礎知識の定着を行う。【決定】 生徒個々にパフォーマンステストを実施し、確実に実験操作と手順を理解させる。【対話】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 教科書などに出てくる語句への理解が不十分で、文章の内容を正しく理解できていない生徒が多い。 複数の事象を因果関係で結び付けたり、時系列に並べて理解する論理的思考に慣れていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段見慣れない語句については、用語解説や辞書を使って意味を調べる時間を設ける。【発見】 学習内容を年表形式でまとめたり、事象の因果関係を相関図としたりする活動を取り入れる。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱活動における全体やパートでの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまふ。 基礎的な知識の定着が図れていない生徒や定期考査に向けての学習が困難な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の課題や到達状況が分かるように振り返りをしたりワークシートを記入したりする場面を設ける。【決定】 活動の中で繰り返し触れたり、ICTを活用したりすることで基礎的な知識の定着を図る。【発見】 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動において、表現の意図や工夫、形や色彩の働きを考え、よさや美しさを感じ取ることを苦手とする生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩が作品の醸し出す雰囲気や描かれているものの気持ちにどのように影響しているかを考えさせながら、鑑賞の授業を行う。【発見】 対話型授業を行い、教師や生徒同士で意見を交換することで、生徒の意見を引き出す工夫をする。【対話】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 材料の知識と製作計画が結びつかず、計画段階で活用できていない生徒が見られた。 問題解決の授業において、身の回りの問題や課題の設定がうまくできない生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性を踏まえて設計を行えるようにワークシートの工夫をする。【発見】 グループでの共有やクラス全体での発表場面を増やして、生徒同士で考える場面を増やす。【対話】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に向けての学習が十分でない生徒がいる。 自分の身近な生活や社会とのつながりを考え、実践課題を見つけていこうとする意欲が弱い生徒がいる。 学んだことを実生活にどう生かすか、具体的に想像して表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して、多くの具体的な事例などを紹介し、情報や考え方を共有する工夫をする。【発見】 サステナブルファッションなど社会の動きに対応した教材を具体的に提示し、自分に関わることを実感させる工夫をする。【対話】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業に前向きな生徒が多い。授業参加が難しい生徒も数名見られる。学習内容を振り返る際に、課題等を抽象的に捉えてしまう生徒も見られる。 発問に対しよく反応するが、関係のない発言をする生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの記入の仕方を全体指導を行い、課題、改善策の具体性のある書き方を理解させる。【表現】 グループワークやペアワークを通して対話的な学習の機会を設ける。【対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業中には会話活動等を通じ、その場では理解しているが、家庭学習が不足し、学習内容が定着していない生徒が多く見られる。 教科書、ワークブックなどの教材ではできているが、即興で話す、書くができていない。 様々な状況や場面でも、意欲的にコミュニケーションを取れる基礎力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックで課題を提示する等、授業外で英語に触れる機会を増やし、基礎基本の定着を図る。 授業で学んだことを利用し、特に話す・書く場面で即興的に表現できるよう練習させる。【表現】 対話活動に様々なパターンをもたせ、実践的な力を伸ばす。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識等の定着が低い。 「構造と内容の把握」の学習過程においては、文章の内容理解等の力に差がある。 「精査・解釈」や「考えの形成・共有」の学習過程において、考えをもてない生徒も一定数存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト等の実施による基礎的な知識等の定着を目指す。【発見】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を徹底し、着実な資質能力の育成を進める。【発見】【決定】 個→集団→個の授業展開により、考えをもてない生徒への手立てとする。【表現】【対話】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力は身に付いている生徒もいるが、不足している生徒もいる。特に小数や分数の計算についての計算力が不足している。 文章問題から、問題の設定を把握することに苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算だけでなく、発展的な計算問題にも取り組ませる。eライブラリ等を利用した復習など、繰り返しの学習を通して個々の計算力向上につなげる。【発見】【表現】 周囲の生徒と教え合いや考えを共有する時間を設ける。【対話】【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 授業中には理解していても、家庭学習を通じた知識の定着が不十分である 学んだ法則や知識を、新しい場面や問題に応用する力に課題がある。 実験活動において、手順や目的を踏まえて自ら主体的に取り組む姿勢が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの活用と学習の振り返りにより、日々の学習習慣の定着と自らの学びに向き合う姿勢を育てる。【発見】 実験の事前学習と心構えにについて、学習内容に合わせて指導する【発見】 調べ学習や表現活動の充実により、自分の考えをもとに判断し、表現する力を伸ばす。【表現】【対話】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぼうとする生徒が多いが、基礎的・基本的な既習事項が十分に定着しているとは言えない。 社会的事象に関心をもつ生徒は多いが、その背景についての問いを立てたり、他の事象との関連を考察したりすることができる生徒が多いとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を問う機会を授業内に複数設け、既習事項を振り返る学習を継続する。【対話】 社会的事象を取り上げ、それについての問いを例示したり、他の事象との関連について考察させたりする機会を設ける。【対話】【発見】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱活動における全体やパートでの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまふ。 音楽を形作っている要素やそれらの動きを表す用語、記号の理解ができていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の課題や到達状況が分かるように振り返りをしたりワークシートを記入したりする場面を設ける。【決定】 要素や用語、記号などについて音楽活動や教え合いなどを通して理解できるようにする。【対話】 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 発想の活動において画一的なアイデアになる生徒が見られる。 鑑賞において、作者の心情や表現の意図と工夫を読み取ることが苦手な生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を見せるタイミングを考慮して、幅広い構図を参考させ、空間や余白、動きを生かした構成を意識しながら、構成力を身に付けさせる。【決定】【表現】 文章や言葉で考えさせ、整理することで観る視点を明確にさせる。【対話】【発見】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術を実生活と結びつけて考えさせることに課題がある。 情報の技術に関する知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スマホや家電、交通システムなど、身近なICTの仕組みを調べて共有する探究活動を取り入れ、基礎知識の必要性を実感させる。【発見】 Chromebookを使い、シミュレーション教材や簡易プログラムを用いて「入力→処理→出力」を体感できるアクティビティを導入する。【表現】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 既習の技能（玉結び、玉どめ、並縫い、返し縫いボタン付けなど）の定着に課題がある。 学んだことを、自分の生活に結びつけ、自分の考えを深める力が弱い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「できた」という達成感や「分かった」と生徒が思える授業づくりの工夫をする。【発見】 振り返りシートを活用し、自分の課題発見や進捗チェックを行う機会を設ける。【表現】 意見交換の方法を工夫し個人・グループなどの様々な形で実施し、考えを深められるようにする。【対話】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組む生徒が増えてきているが、集中力が続かない生徒が見られる。 学習カード等での思考や表現を見取る際、やや男女差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークやICTの活用を通して、対話的な学びを増やす【対話】 自己や他者の課題を見つけられるようペア学習などの機会を増やす。【発見】【対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業では活動に取り組んでいるが、家庭学習等での練習が不足している生徒が見られる。 教科書、ワークシートなどの教材ではできているが、即興で話す、書くがあまりできていない。 様々な状況や場面でも、意欲的にコミュニケーションを取れる基礎力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題等を通し、授業外で英語に触れる機会を増やし知識・技能の活用を促して、基礎基本の定着を図る。 授業で学んだことを利用し、特に話す・書く場面で即興で表現できるように練習を増やす。【表現】 対話活動に様々なバリエーションをもたせて、実践的な力を伸ばす。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に国語の資質能力は高いが、個人差が大きく、特に文章の内容理解のスピードや正確さに顕著な差が見られる。 話すこと、聞くことへの苦手意識のある生徒がわずかだが存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を徹底し、着実な資質能力の育成を進める。【発見】【決定】 目的や意図に応じて「話すこと」や「聞くこと」に取り組む機会を設けるとともに、日常生活との関連を意識させて取り組ませる。【対話】【表現】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力は身に付いている生徒が多いが、一部生徒は分数や小数、割合などの計算に対し苦手意識をもっている。 思考力・判断力・表現力を問う課題に対して苦手意識をもつ生徒が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの問題に触れることで、速く確実に計算する力を身に付ける。【決定】【表現】 ICTを活用することや生徒同士での学び合いの場を増やし、多角的な見方と多彩な考え方を養う。入試問題を用いて、応用問題に対する苦手意識をなくす。【発見】【対話】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果や考察の書き方などの技能の向上 様々な現象の基礎的な計算の定着 1年から3年の各単元の基礎的な知識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 実験ごとに結果の正しいまとめ方と考察の書き方を指導し、評価した後にフィードバックする。【対話】 基礎・基本の定着ができない生徒には重点的に指導を行う。【対話】 入試問題を用いて、問題演習を行う。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 指示された課題に取り組み、基礎的・基本的な知識を理解しようとする姿勢が見られるが、授業に対して受け身の生徒が多い。 既習事項が社会的事象に対する思考力・判断力・表現力と結びついていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容だけでなく、その先につながり、広がる学びを問いとした課題の提示など、学びに向かう力の育成を図る。【対話】【発見】 自分や他者の考えを相互に発表する場を継続的に設け、社会的な見方や考え方の育成を図る。【対話】【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱活動における全体やパートでの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまふ。 鑑賞活動で、音楽を形作っている要素やそれらの働きと関連付けて聴けていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の課題や到達状況が分かるように振り返りをしたりワークシートを記入したりする場面を設ける。【決定】 要素について理解させ、関連付けて聴けている生徒の鑑賞文の紹介や、教え合い活動を行い、曲想とのかかりを理解して聴けるようにする。【対話】 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 構成を工夫しながら効果的に表現することが苦手とする生徒が見られる。 鑑賞において根拠をもって理解を深めながら、よさや美しさを味わうことを苦手とする生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを利用して、視点の工夫や線の強弱、種類を工夫して構成の仕方を試行錯誤させる機会を多く設ける。【決定】【表現】 対話型鑑賞を行い、形や色彩、技法と主題の関係に触れながら、意味や価値を問うよう指導する。【対話】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> グループでの課題解決には意欲的に取り組んでいるものの、期末考査等で応用的な問題に対応できない生徒が多く見られる。 グループ活動中は役割分担で理解に差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動後に「知識の抽象化・一般化」を行う時間を設定する。作ったものの仕組みを図や式にまとめさせ、知識として整理する。【発見】 活動後に振り返りテスト等を実施し、各自の理解を確認する仕組みを組み込む。【表現】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 実生活や社会の中にある課題に関心をもっていたり、授業に意欲的に参加している生徒が多いが、自分の意見を発信することに消極的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会とつながって生きるための課題に気付かせ、仲間の考えも分析しながら、自分の意見をきちんと伝える力を鍛えるための課題を提示する。【対話】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 知識で理解していても体で表現することが苦手な生徒が見られる。 男女共修に抵抗を持ち、男女間での意見交換が難しい生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の動きを可視化できるようICTを活用し、課題発見・解決学習につなげていく。【発見】【対話】 運動を通してコミュニケーションがとれるよう、ペア学習やグループ学習を取り入れ、対話的な学びにつなげる。【発見】【対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業では活動に取り組んでいるが、家庭学習等での練習が不足している生徒が多く見られる。 教科書、ワークなどの教材ではできているが、即興で話す、書くができていない。 様々な状況や場面でも意欲的にコミュニケーションを取れる基礎力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックで課題を提示する等、授業外で英語に触れる機会を増やし、基礎基本の定着を図る。 授業で学んだことを利用し、特に話す・書く場面で即興的に表現できるよう練習させる。【表現】 対話活動に様々なパターンをもたせ、実践的な力を伸ばす。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。